

成果の説明書

(氏名)	矢野修一	(学部)	経済学部
1 重要事項			
◇翻訳（共訳）の出版；			
<p>E. Helleiner, <i>States and the Reemergence of Global Finance: From Bretton Woods to the 1990s</i>, Ithaca and London: Cornell University Press, 1994. の邦訳書『国家とグローバル金融』を出版した（法政大学出版局、2015年9月刊）。日本語版への序文、序文、第1章～第3章の翻訳を担当したほか、訳語の統一、全体の調整を行い、「訳者あとがき」を執筆した。</p>			
◇共編著の出版；			
<p>平川均ほかと『新・アジア経済論—中国とアジア・コンセンサスの模索』を編集・出版（文眞堂、2016年2月刊）し、同書に「新自由主義批判とアジア・コンセンサスのエチュード」を寄稿した。</p>			
◇学会コメント；			
<p>日本国際経済学会第74回全国大会第13分科会（2015年11月8日、専修大学）における高橋直志報告「異能の政治経済学者ハーシュマンの理論と思想—再評価と現代的意義」に対し、コメントを行った。</p>			
◇研究会報告；			
<p>アジア・コンセンサス研究会（2015年6月7日、明治大学）において「新自由主義による開発の侵食とヘゲモニーの推移」と題する報告を行い、参加者と議論を行った。</p>			
◇研究会報告；			
<p>グローバル政治経済学研究会ならびに東京新世界経済研究会共催の2016年春の例会（2016年3月5日、立教大学12号館）において、「エリック・ヘライナー『国家とグローバル金融』の射程」と題する基調報告を行い、グローバル金融ガバナンスの展開過程について全国からの参加者と議論を行った。</p>			
◇講演；			
<p>栃木県生活協同組合連合会第9回「理事・組織活動担当職員学習会」（2015年5月25日、宇都宮市文化会館）において「アベノミクスと日々の暮らしの関係について」と題する講演を行った。</p>			
◇高経大学生と高経附生徒による「高大コラボゼミ」の企画および指導；			
<p>2010年度、2011年度、2012年度、2013年度、2014年度に続き、日本企業のケーススタディを柱とする「高大コラボゼミ」を企画し各種指導を行った。経営支援NPOクラブの支援を仰ぎつつ、学生・高校生による三井物産、トヨタ自動車、三菱重工、日本水産、東燃ゼネラル、資生堂の訪問・インタビューをアレンジし、2015年9月12日の成果発表会につなげた（自身はトヨタ自動車担当）。</p>			
<p>成果発表会当日は、高経大・高経附の現役大学生・高校生のほか、コラボゼミを経験した両校卒業生、高・大教職員、保護者、一般市民、マスコミ関係者、高経附進学希望の中学生親子等、数百名が出席した。</p>			

◇『高経大+高経附 高大コラボゼミ 2015 年度成果報告書』（2016 年 3 月刊）の編集補助；

2015 年度の高大コラボゼミに取り組んだ大学生の感想・コメントをとりまとめ、成果報告書の編集を補助した。

◇高崎経済大学矢野ゼミナール卒業論文集『経済学研究年報』第 23 号（2016 年 3 月 25 日刊）の監修および編集；

1994 年 3 月の創刊以来、『経済学研究年報』の監修・編集を継続。2015 年度も総勢 14 名の卒業論文の執筆を指導し、330 頁超の卒業論文集を完成させた。印刷・製本された卒業論文集は、本人のほか、保護者やゼミの後輩らに配付された。

2 その他の事項

◇群馬県教育委員会「平成 27 年度高大連携推進協議会委員」；

群馬県内における高大連携のあり方について協議。

◇高崎経済大学経済学会長としての活動；

経済学会長として、正会員総会・理事会の開催、『高崎経済大学論集』刊行（年 4 回）、学術講演会の開催（年 4 回）、『Intro』発行などを主導。

◇高崎経済大学広報室長としての活動；

広報室長として、大学案内・大学院案内、たかけい学報の編集、大学訪問・出前授業の調整、オープンキャンパス、各種大学説明会などの開催を主導し、高崎経済大学の広報に努めた。広報室長自らも上田高校（長野県）、愛工大名電高校（愛知県）など比較的遠方から依頼された出前授業に赴いた。

◇ポシビリズム研究会主宰；

1998 年から活動を続けるポシビリズム研究会の 2015 年度例会を開催（2015 年 10 月 31 日・11 月 1 日、高経会館）し、ゼミの卒業生と現役生との研究交流を進めた。

◇就活サポート事業実施；

ゼミ卒業生の支援を受けながら、現役ゼミ生のエントリーシートの作成や面接などについて指導を行った（2016 年 2 月 19 日、東京八重洲ほか）。

3 次年度以降の計画・抱負

定年まであと 10 年となったが、これまでどおり、研究・教育・学内業務に真摯に取り組む。2015 年度は久々にポシビリズム研究会としての成果を世に問うこと（共訳書・ヘライナー『国家とグローバル金融』の出版）ができた。今後も自らの研究を深めると同時に、ゼミ卒業生と現役生の出会いの場を醸成する。

授業の高評価（学部平均点+10 ポイント）を維持できるよう、講義内容の学問的基盤をさらに強化するとともに、授業準備にも磨きをかける。

広報室長として開学 60 周年（2017 年）に向けた準備を進め、60 周年を高崎経済大学のさらなる発展のスタートとしたい。